



# 角笛会会報

発行所

日本大学生物資源科学部  
獣医学科角笛会〒252-8510  
藤沢市亀井野1866  
0466-84-3636

## 御挨拶—角笛会の今後に向けて—

角笛会会長 中川秀樹(昭40年卒)

会員各位におかれては、日頃角笛会に格段の御高配を賜っております。御協力まことに有り難く、深く感謝申し上げます。

平成15年度総会にて会長の大役を拝命致し、恐縮しております。この度、副会長に長尾壮七(昭27)、田中茂男(昭38)、岩田顯三(昭40)、監事には月瀬 東(昭40)、山村穂積(昭41)、島海 弘(昭50)各位を配し、新たな会の運営を行わせて戴く事となりました。明治期から始まり、前会長日比野次郎先生に至るまで、営々として築かれ、維持されて参りましたよき伝統ある本会を、一時的乍も御預かり申し上げる事に至り、身の引き締まる心地が致します。何とかこの大きな礎を支えるべく、微力を尽くす所存でございます。

会員各位におかれましては、何卒宜しく御指導、御鞭撻を御願ひ申し上げます次第でございます。

嘗て越智喜三郎先生が、獣医学科の前身たる「東京獣医学校」を、当時の下渋谷の地に設立されたのは、1907年の事と伺っております。開校の直接の動機は、日露戦役での実務獣医師不足への痛感とも伝えられております。日露終戦より今年で丁度百年が経過致しました。この間、卒業した約一万三千名の会員は、時と所こそ違え、それぞれ健闘され、牽いては後進の途の開拓に御尽力賜って今日に至っております。実に力強い限りとして誇らしく諸先輩、同僚、後進の方々に、篤く御礼申し上げます。

今般総会に描きましても東京獣医学校、日本大学獣医学科卒業生の校友組織として、角笛会は確固とした活動を続ける事が確認されました。急速に多様化を標榜し始めた現代の世相の中では、各支部活動に、特段御苦勞をお掛け申し上げていると存じ、とりわけ恐縮している処でございます。しか

しながら校友が相互に成長する身近な機会を与え、社会人として更に一層の社会還元を目指し、また獣医師の今後を学びの場と現場との相互の見地から考えねばならぬ時、角笛会の様な組織こそ、これを揺るがせては、私達自身が今後立ち行かぬと確信しております。此処において、本部も各支部と問題を共有し、対応を図る所存でございます。

角笛会は、生涯の或る時期において学業の場を共にした専門家集団の親睦組織です。そして、親睦組織としては無論、更に今後は此処に、校友・後進に役立てる為の種々の情報の提供と発信との場としての幅を拡げて参る事が出来ればと、愚考しております。会員の皆様の御意見、御鞭撻など何なりとお寄せ願えるならば、これに卓るものなく、虚心坦懐に傾聴させて頂き所存でございます。会員各位の御要望に、当執行部を始め運営職掌の任に当たる者は、皆一丸として、出来得る限りの対応を図りたく存じます。斯様な次第でございますので、今後とも角笛会を、何卒宜しく御願ひ申し上げます次第でございます。

末筆となりましたが、皆様の御多幸を祈念致しますと共に、何よりも御自愛の程を御願ひ申し上げます、御挨拶に代えさせて頂き戴きます。

## ■ 獣医学教育の充実と国立大学法人 ■

獣医学科主任 渡部 敏



会員の皆様方にはご清栄のことと存じます。昨年申し上げましたように国立大学においては、平成14年6月の閣議決定に従って16年度から「国立大学法人・非公務員」の制度が施行されます。法人化・非公務員化するに当たっては、大学教育の充実と国際化を前提とした国立大学の再編・統合による学部および大学院大学を設置しなければなりません。

平成16年度から現在の国立大学が「国立大学法人」となった場合、教職員約12万人が「非公務員」となります。そして平成22年には教育の充実と国際化の中期目標・計画の達成度を大学(第三者)評価委員(仮称)によって評価され、予算配分に反映されます。国立獣医系大学法人における具体的な中期目標・計画が全国国立大学農学部長会議で決定されています。それによれば平成18年度までに最低18講座・教員54名、22年度までに教員72名とするとされています。

獣医学教育の充実と国際化については平成9年2月、大学基準協会は「獣医学教育に関す

る基準」を改定しました。それによれば獣医学教育および研究は「獣医学部」あるいはこれに相当する学部組織により実施し、施設設備としては「獣医学教育病院」、「獣医臨床センター」および「先端動物研究センター」の設置、更に「公衆衛生臨床研修センター」、「野生動物臨床研修センター」、「毒性安全性研修センター」、または「獣医熱帯病臨床研修センター」の何れか一施設を選択して設置することが上げられています。平成12年3月、日本学術会議獣医学研究連絡委員会は、獣医学教育および研究は「獣医学部」において行うものとし、社会の要請に対応した獣医学教育を国際的水準に到達させるために抜本的改革を行う必要あることを提言しています。平成13年4月、全国大学獣医関係代表者協議会会長(唐木英明 東京大学教授)から、「獣医学教育基準の達成に関する要望書(通知)」が各関係大学学長、総長宛に送付されました。その中で「各私立大学が建学の精神にそって獣医学部教育の整備充実に向けて一層努力するこ

とを要望する」と述べています。

国立獣医系大学が「国立大学法人・非公務員」となるのは時間の問題となりました。それに伴って私立獣医系大学における獣医学教育の充実と国際化は必定の状況となりました。平成14年7月、同僚校である日本獣医畜産大学は獣医畜産学部獣医学科を獣医学部に改組しました。以上のような状況から本学においても学部当局を始め校友諸公と獣医学科教員が一丸となってこの難局を乗り切らなければなりません。ご協力の程お願い申し上げます次第であります。



## 角笛会総会を開催

平成15年7月5日土曜日午後1時より、日本大学湘南校舎第4講義室で、本年度の角笛会幹事会、同総会が三時間にわたり開催されました。両会では共に先ず事務局より提出した平成14年度の事業報告、会計報告が、監事（小暮規夫（昭24）、堀口隆嘉（昭33）、福田陽一（昭36））の監査報告を受けた後、承認を得ました。続いて平成15年度事業計画案、同予算案が審議され順当に承認、成立致しました。平成14年度では総計26回、支部等全国の校友組織に大学教員、角笛会執行部を派遣致しましたが、今後も変わることなく各支部との連絡活動を密にして参ることが日比野会長より表明されました。本部では戦前の角笛会母体からを含め現在に至る非物故会員氏名を、凡そ一万名程度保管しております。しかし、会費納入者は、その約一割に留まっている現状です。今回の総会では、この様な現状を踏まえ大学、本部、支部の三者が相互に連携し、新会員の支部入会促進を図って行く方針が改めて確認されました。

角笛会功労者として、小泉敏夫先生（昭19、元北海道角笛会支部長）、原田豊造（昭22、元茨城県角笛会支部長）、小池専治（昭28、元岩手県角笛会支部長）各先生が満場一致にて認められ、記念品（時計）と共に授与式が、総会終了後挙行されました。また、ANMEC（日本大学動物病院）支援基金授与者として、日大衛生学研究室（酒井健夫教授）大学院学生北川勝人君の「小動物てんかん発作性疾患の診断基準確立に関する研究」が承認され、功労者表彰に引き続き授与式が執り行われました。

新支部長である澤田 啓（青森、昭25）、沼田幸彦（佐賀、昭30）、三浦賢良（岩手、昭32）、犬塚 誠（和歌山、昭35）、倉林恵太郎（東京、昭36）各先生が幹事として、また奥田 勝（昭34）、斎藤 勝（昭38）、三浦康男（昭40）、川路利和（昭42）、渋谷 久（昭60）、鯉江 洋（平2）、浅野和之（北大卒平3）、伊藤琢也（平7）各先生が学内幹事として、それぞれ新たに承認されました。本年度は、役員改選期に当たり、会長に中川秀樹（昭40、横浜）、副会長に長尾壮七（昭27、神奈川）、田中茂男（昭38、日大）、岩田頼三（昭40、千葉）、監事に

月瀬 東（昭40、日大）、山村穂積（昭41、東京）、鳥海 弘（昭50、神奈川）各先生が、それぞれ承認を受けました。三期に亘り会務を主導された日比野次郎先生（昭14）は、新たに顧問への推挙を受け、承認されました。

角笛会会則は、会員の意見を広く戴き、現在検討中の改正案素案を叩き台として検討を続けることとなりました。ところで、日本大学本部は、「校友会」を新たに立ち上げました。入会には、原則的に「日大卒業生であること」のみを資格とし、有料登録制を採っています。角笛会は、獣医学科卒業生全てが自動的に所属する会であることから、独自に活動を続け、支部会費も従来通り徴収して戴くことが決まりました。

午後4時より本館地下の「銀座スエヒロ」にて催された懇親会では、凡そ百名程の参会者の集まる中、中川新会長の挨拶に始まり、学科教員も多数参加して、午後6時に、新たな角笛会の旅立ちを祝いつつ、和やかなうちに散会となりました。



## ANMEC 支援基金報告書

### 研究題目：小動物てんかん発作性疾患の 診断確立に関する研究

北川 勝人（平成2年卒）

小動物における頭蓋内中枢神経疾患には、てんかん、脳炎・髄膜炎、腫瘍、奇形、血管障害および変性症などがあるが、これらの疾患に関する発生状況には不明点が多い。そこで日本大学付属動物病院（ANMEC）に1996年から2001年にかけて、神経症状を呈して来院したイヌ189頭とネコ25頭について頭蓋内のMRI検査を行った。診断された疾患は、イヌでは、てんかんが67頭（35.4%）、脳炎・髄膜炎が54頭（28.6%）、腫瘍

が28頭（14.8%）、クモ膜嚢胞が10頭（5.3%）、水頭症が10頭（5.3%）、血管障害が3頭（1.6%）、シェーカードッグ症候群が2頭（1.1%）、神経膠症を伴った後頭蓋嚢胞および不明が各1頭（0.5%）認められた。さらに2つの疾患が同時発生したイヌは13頭であり、その内訳は脳炎・髄膜炎およびクモ膜嚢胞の発症が5頭（2.6%）、腫瘍およびクモ膜嚢胞の発症が2頭（1.1%）、脳炎・髄膜炎および水頭症の発症が2頭（1.1%）、水頭症およびクモ膜嚢胞の発症、水頭症および外傷、腫瘍および血管障害、脳炎・髄膜炎および腫瘍が各1頭（0.5%）であった。ネコでは、てんかんが11頭（44%）、脳炎・髄膜炎が5頭（20.0%）、腫瘍が5頭（20.0%）、水頭症、クモ膜嚢胞、孔脳症および不明が各1頭（4%）であった。

犬種別疾患の発生状況は、脳炎・髄膜炎がシーザーでは19頭中12頭（63%）、マルチーズでは17頭中7頭（41%）、ポメラニ

アンでは17頭中9頭（55%）、およびバグでは7頭中5頭（71%）であり、小型犬種において脳炎・髄膜炎の発生率が高かった。てんかんは、ゴールデンリトリバーで10頭中6頭（60%）、ラブラドルリトリバーで9頭中6頭（66%）、ビーグルで8頭中6頭（75%）、シベリアンハスキーで6頭中5頭（83%）、ミニチュアシュナウザーで6頭中5頭（83%）であった。腫瘍は、ゴールデンリトリバーで10頭中4頭（40%）、シェットランドシープドッグで6頭中3頭（50%）認められた。

以上、イヌおよびネコにおいて最も多くみられる中枢神経系疾患は、脳炎・髄膜炎およびてんかんであり、また犬種によって中枢神経系疾患の発生状況に相違がみられることが明らかとなった。



## 御挨拶

前事務局長 鎌田 寛（昭和53年卒）

事務局も交替の時期を迎えました。左右も判らぬまま始まり、終始不束な事務職掌であったと存じ、忸怩たる思いをかみ締めております。この間、会員各位からは懇切な御援助、御協力を種々賜り、御陰様にて大過なく過ごせて参りました。まことに有り難く、篤く御礼申し上げます。

当初は思いがけぬ事でありましたが、携わるうち、同様他会に抜き出た角笛会の伝統と、会の維持に労を注がれている支部の人々の姿を肌で知る機会を数多く得ました。獣医学科校友が、角笛会活動の維持に向けた草の根の努力を、日本の各地で注いでいる姿は、それまでの漠然、単純としていた幼稚な私的イメージを全く塗り替え、普段目には見えぬながら、営々続けられている会員の営みを思い、内心誇らしく、尊敬し、密かに意を強くして参りました。

至らぬ私でしたが、前会長 日比野次郎先生は、決して私をお叱りになどならず、むしろ私は親身な御指導を戴きました。比較的近いとは申せ、やはり距離の有る御自宅と大学との間も壁として往復なされ、そのフットワークの闊達振りには、常に瞠目させられました。先生は、学生らに、角笛会の大切さを直接語る機会を、幾度となく

持たれるなど、積極的な組織拡充に関心を示されました。とりわけ、各支部での角笛会活動には留意され、機会のある時には遠方の支部総会へも積極的に参加なされて、支部本部間の疎通を図られました。なかなかの直言居士で、某会議の席上、明らかな問題点を黙過して憚らぬ進行に対し、びりっと辛い山椒の発言を決然となされたのには驚きました。思わずお顔に眼を向ければ、その時にはもう普段の温顔に戻っておられるのでした。細かい部分の重要性をよくご存じながらも敢えてこだわらぬ、そんな先生の大度の御陰で、私も活動が出来ました。

関心の薄れは、校友会積年の懸案ですが、角笛会においても近年漸く顕著になって参りました。つい先日では、日本大学本部校友会による、新しい校友会制度発足は、獣医学科校友会としての角笛会の位置を曖昧にする虞を生じさせました。しかし、前年度（平成15年度）角笛会総会で、角笛会活動の独自性が改めて確認され、従来通りの活動の継続決定を見るに及びました。断固として裏打ちされた素地を持つ角笛会の活動が、今後も続く事は大切な事と存じ、まことに御同慶に感じております。

中川秀樹新会長のもとでの新たな角笛会執行部による会の発展を、確信致しますと共に、末筆となりましたが、会員各員と御家族の御健康を祈念し、お別れのご挨拶に替えさせて戴きます。有り難うございました。



# ANMEC関連記事

平成14年度 ANMECセミナー (第77回～第87回)

**第77回** (H14.4.15開催);参加者117名(外部9名・内部108名)

教育講演;第12回 臓器別疾患シリーズ:「先天性心疾患」

コーディネーター:鯉江 洋(総合臨床獣医学)

1. 犬の先天性心疾患 鯉江 洋(総合臨床獣医学)
2. 先天性心疾患の治療について 浅野 和之(獣医外科学)

**第78回** (H14.5.20開催);参加者148名(外部11名・内部137名)

教育講演;第4回 感染防御シリーズ:「犬糸状虫症」

コーディネーター:佐々木 榮英(獣医内科学)

1. 犬糸状虫症ー寄生虫学的見地からー 椎橋 孝(医動物学)
2. 犬フィラリア症ー病理学的変化ー 佐藤常男(獣医病理学)
3. 犬フィラリア症の病態と治療 佐々木榮英(獣医内科学)

**第79回** (H14.6.17開催);参加者170名(外部8名・内部162名)

教育講演;第13回 臓器別疾患シリーズ:「造血器疾患」「貧血」

コーディネーター:亘 敏広

1. 造血器の構造と血球分化 森友忠昭(魚病学)
2. 貧血の鑑別診断 加納 翌(獣医臨床病理学)
3. 貧血の臨床例 亘 敏広(総合臨床獣医学)

**第80回** (H14.7.22開催);参加者94名(外部6名・内部88名)

教育講演;第5回 感染防御シリーズ:「抗生物質耐性菌」

コーディネーター:鎌田 寛

1. 寄生虫の駆虫薬 椎橋 孝(日本大学 医動物学)
2. 小動物由来耐性菌の現状と抗菌薬療法について 片岡 康(日本獣医畜産大学 獣医微生物)
3. 耐性菌の性質と検出 鎌田 寛(日本大学 獣医微生物)

**第81回** (H14.9.30開催);参加者165名(外部10名・内部155名)

教育講演;第14回 臓器別疾患シリーズ:「股関節」

コーディネーター:山谷吉樹

犬の股関節疾患の診断と治療 講師 永岡 勝好

**第82回** (H14.10.28開催);参加者142名(外部13名・内部129名)

教育講演;Dr.Steve Martinez (WSU 整形外科)

小動物臨床における関節鏡の応用

**第83回** (H14.11.25開催);参加者110名(外部5名・内部105名)

教育講演;Dr.Michael E.Matz, DVM, ACVIM

(サウスウエスト獣医内科専門病院)

犬と猫における肝疾患と栄養管理

**第84回** (H14.12.16開催);参加者85名(外部5名・内部80名)

教育講演;第6回 感染防御シリーズ:「レトロウイルスについて」

コーディネーター:加納 翌

1. レトロウイルスの免疫抑制機構について 大谷 功(獣医生理学)
2. レトロウイルスの発癌機構について 壁谷英則(獣医公衆衛生学)
3. 猫のレトロウイルスの感染症について 加納 翌(獣医臨床病理学)

**第85回** (H15.1.20開催);参加者80名(外部7名・内部73名)

教育講演;第15回 臓器別疾患シリーズ:「前立腺疾患」

コーディネーター:津曲茂久

1. 前立腺の解剖生理 月瀬 東(獣医解剖学)
2. 前立腺疾患の病理 佐藤常男(獣医病理学)
3. 前立腺疾患の診断治療 津曲茂久(獣医臨床繁殖学)

**第86回** (H15.2.24開催);参加者50名(外部6名・内部44名)

教育講演;第7回 感染防御シリーズ:「エキゾチックアニマルの感染症」

コーディネーター:湯川真嘉

1. ペット動物の感染症の現状 湯川真嘉(実験動物学2)
2. ライム病の媒介者たち 佐藤雪太(実験動物学2)

**第87回** (H15.3.17開催);参加者75名(外部9名・内部66名)

教育講演;第16回 臓器別疾患シリーズ:「鼻腔内腫瘍」

コーディネーター:亘 敏広

1. 鼻腔の構造 月瀬 東(獣医解剖学)
2. 鼻腔内腫瘍の病理 佐藤常男(獣医病理学)
3. 鼻腔内腫瘍の臨床 亘 敏広(総合臨床獣医学)



## 学会関連記事

第41回 日本大学獣医学会が下記のとおり開催されました。

担当学会長 日比野次郎

開催担当 東京角笛会

日時:平成15年12月7日(日)

午前10時～午後5時

会場:六本木アカデミーヒルズタワーホール

東京・港区六本木、六本木ヒルズ森タワー49階

評議員会:午前9時～10時(同会場)

一般講演:午前10時～午後0時

総会:午後0時～午後1時(同会場)

特別講演:午後1時～午後5時

『痛みと関節疾患に関するシンポジウム』

「発育性骨関節疾患の画像診断と最新アプローチ法」

宮林孝仁先生

(Director & CEO The Institute of Veterinary

Education & Advanced Technology

(獣医教育・先端技術研究所所長)

「“いたみ”の緩和療法」

山谷吉樹先生

(日本大学・総合臨床獣医学研究室、講師、獣医学博士)

後援:アイムス・ジャパン株式会社

日本全業工業株式会社

協賛:メリアル・ジャパン株式会社

ベーリンガーインゲルハイムシオノギベトメディカ株式会社

## 総会資料

## 平成14年度一般会計収支決算報告書

自 平成14年4月1日 至 平成15年3月31日

## 収入の部

(円)

| 科 目          | 予算額       | 決算額       | 差 額       | 備 考         |
|--------------|-----------|-----------|-----------|-------------|
| I. 支部会員費     | 1,200,000 | 1,535,000 | 335,000   | 1,535名分     |
| 今年度分         | 1,000,000 | 1,134,000 | 134,000   | 1,134名分     |
| 過年度分         | 200,000   | 401,000   | 201,000   | 401名分       |
| II. 終身会員費    | 1,200,000 | 240,000   | △ 960,000 | 12名×@20,000 |
| III. 新入会員費   | 1,400,000 | 1,140,000 | △ 260,000 | 学部後援会114名分  |
| IV. 学部校友会交付金 | 200,000   | 200,000   | 0         | 学部より        |
| V. 懇親会参加費    | 280,000   | 250,000   | △ 30,000  | H14総会懇親会    |
| VI. 寄付金      | 0         | 0         | 0         |             |
| VII. 預金利子    | 4,947     | 56        | △ 4,891   |             |
| VIII. その他    | 0         | 43,733    | 43,733    | タイピン代       |
| 当期収入合計(A)    | 4,284,947 | 3,408,789 | △ 876,158 |             |
| 前期繰越額        | 3,360,053 | 3,360,053 | 0         | H13年度       |
| 収入合計(B)      | 7,645,000 | 6,768,842 | △ 876,158 |             |

## 支出の部

(円)

| 科 目           | 予算額         | 決算額       | 差 額         | 備 考        |
|---------------|-------------|-----------|-------------|------------|
| I. 経常費        | 4,660,000   | 2,311,830 | 2,348,170   |            |
| 1. 会合費        | 1,000,000   | 331,082   | 668,918     | 懇親会、会議等    |
| 2. 交際費        | 700,000     | 203,000   | 497,000     | 支部総会等祝い金   |
| 3. 旅費交通費      | 1,000,000   | 482,800   | 517,200     | 支部総会等旅費    |
| 4. 通信運搬費      | 500,000     | 263,504   | 236,496     | 通信料・銀行振込料  |
| 5. 事務局運営費     | 1,460,000   | 1,031,444 | 428,556     | 給与、事務用品等   |
| II. 会報費       | 800,000     | 514,500   | 285,500     | 会報18号      |
| III. 名簿作成繰入金  | 300,000     | 0         | 300,000     | 特別会計 I     |
| IV. 名簿管理費     | 300,000     | 0         | 300,000     | 業務委託 名簿費等  |
| V. 卒業生記念品費    | 500,000     | 105,525   | 394,475     | 平成14年度卒業生他 |
| VI. 学会補助費     | 200,000     | 200,000   | 0           | 第40回日大獣医学会 |
| VII. 将来事業基金   | 300,000     | 0         | 300,000     | 特別会計 II    |
| VIII. 組織拡充費   | 300,000     | 0         | 300,000     | 情報ネット化調査費  |
| IX. 予備費       | 285,000     | 0         | 285,000     |            |
| 当期支出合計(C)     | 7,645,000   | 3,131,855 | 4,513,145   |            |
| 当期収支差額(A-C)   | △ 3,360,053 | 276,934   | △ 3,636,987 | 三菱銀行       |
| 次期繰越収支差額(B-C) | 0           | 3,636,987 | △ 3,636,987 |            |

平成15年7月5日 平成15年度角笛会総会承認

収入の部…VIII. その他のタイピン代内訳 タイピン60×@650円=39,000円 税込み40,950円  
 ペンダントヘッド5×@530円=2,650円 税込み 2,783円 合計 43,733円

支出の部…I-4.通信運搬費 郵便振替手数料 7件×@120円含む  
 V.卒業生記念品費内訳 平成15年卒業生 男子78名(生物資源科学)1名(農獣医)女子74名 合計153名

## 平成14年度特別会計Ⅰ 収支決算報告書【名簿会計】

自 平成14年4月1日 至 平成15年3月31日

## 収入の部

(円)

| 科 目        | 予算額       | 決算額       | 差 額       | 備 考       |
|------------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| I. 名簿作成繰入金 | 300,000   | 0         | △ 300,000 | 三菱定期      |
| II. 預金利子   | 31,915    | 11,314    | △ 20,601  | 大和証券／三菱銀行 |
| III. 繰越差額  | 0         | 0         | 0         |           |
| 当期収入合計(A)  | 331,915   | 11,314    | △ 320,601 |           |
| 前期繰越額      | 3,898,085 | 3,898,085 | 0         |           |
| 収入合計(B)    | 4,230,000 | 3,909,399 | △ 320,601 |           |

## 支出の部

(円)

| 科 目           | 予算額         | 決算額       | 差 額         | 備 考 |
|---------------|-------------|-----------|-------------|-----|
| I. 名簿印刷費      | 0           | 0         | 0           |     |
| II. 送料        | 0           | 0         | 0           |     |
| III. 名簿作成費    | 3,910,000   | 0         | △ 3,910,000 |     |
| III. 予備費      | 320,000     | 0         | △ 320,000   |     |
| 当期支出合計(C)     | 4,230,000   | 0         | △ 4,230,000 |     |
| 前期繰越額         | 3,518,632   | 0         | △ 3,518,632 |     |
| 当期収支差額(A-C)   | △ 3,898,085 | 11,314    | 3,909,399   |     |
| 次期収支繰越差額(B-C) | 0           | 3,909,399 | 3,909,399   |     |

平成15年7月5日 平成15年度角笛会総会承認

## 平成14年度特別会計Ⅱ 収支決算報告書【支援基金・将来事業資金】

自 平成14年4月1日 至 平成15年3月31日

## 収入の部

(円)

| 科 目        | 予算額       | 決算額       | 差 額       | 備 考       |
|------------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| I. 将来事業繰入金 | 300,000   | 0         | △ 300,000 | 三菱定期      |
| II. 預金利子   | 16,339    | 3,803     | △ 12,536  | 大和証券／三菱銀行 |
| 当期収入合計(A)  | 316,339   | 3,803     | △ 312,536 |           |
| 前期繰越収支差額   | 6,683,661 | 6,683,661 | 0         |           |
| 収入合計(B)    | 7,000,000 | 6,687,464 | △ 312,536 |           |

## 支出の部

(円)

| 科 目           | 予算額         | 決算額       | 差 額         | 備 考      |
|---------------|-------------|-----------|-------------|----------|
| I. 研究助成費      | 500,000     | 100,000   | △ 400,000   | 宮崎 良雄先生へ |
| II. 外国専門医招聘料  | 150,000     | 0         | △ 150,000   |          |
| 予備費           | 1,200,000   | 0         | △ 1,200,000 |          |
| 将来事業基金        | 5,150,000   | 0         | △ 5,150,000 |          |
| 当期支出合計(C)     | 7,000,000   | 100,000   | △ 6,900,000 |          |
| 当期収支差額(A-C)   | △ 6,683,661 | △ 96,197  | 6,587,464   |          |
| 次期収支繰越差額(B-C) | 0           | 6,587,464 | 6,587,464   |          |

平成15年7月5日 平成15年度角笛会総会承認

## 総会資料

## 平成15年度一般会計 予算

自 平成15年4月1日 至 平成16年3月31日

## 収入の部

(円)

| 科 目          | 予 算 額     | 前年度予算額    | 差 額       | 備 考           |
|--------------|-----------|-----------|-----------|---------------|
| I. 支部会員費     | 1,600,000 | 1,200,000 | 400,000   | 1,600名×@1,000 |
| 今年度分         | 1,200,000 | 1,000,000 | 200,000   | 1,200名×@1,000 |
| 過年度分         | 400,000   | 200,000   | 200,000   | 400名×@1,000   |
| II. 終身会員費    | 600,000   | 1,200,000 | △ 600,000 | 30名×@20,000   |
| III. 新入会員費   | 1,200,000 | 1,400,000 | △ 200,000 | 学部後援会         |
| IV. 学部校友会交付金 | 200,000   | 200,000   | 0         | 学部より          |
| V. 懇親会参加費    | 300,000   | 280,000   | 20,000    | 60名×@5,000    |
| VI. 寄付金      | 0         | 0         | 0         |               |
| VII. 預金利子    | 3,013     | 4,947     | △ 1,934   |               |
| VIII. その他    | 0         | 0         | 0         |               |
| 当期収入合計(A)    | 3,903,013 | 4,284,947 | △ 381,934 |               |
| 前期繰越額        | 3,636,987 | 3,360,053 | 276,934   |               |
| 収入合計(B)      | 7,540,000 | 7,645,000 | △ 105,000 |               |

## 支出の部

(円)

| 科 目           | 予 算 額       | 前年度予算額      | 差 額       | 備 考        |
|---------------|-------------|-------------|-----------|------------|
| I. 経常費        | 4,570,000   | 4,660,000   | △ 90,000  |            |
| 1. 会合費        | 1,170,000   | 1,000,000   | 170,000   | 懇親会、会議等    |
| 2. 交際費        | 700,000     | 700,000     | 0         | 支部総会等祝い金   |
| 3. 旅費交通費      | 1,000,000   | 1,000,000   | 0         | 支部総会等旅費    |
| 4. 通信運搬費      | 500,000     | 500,000     | 0         | 通信         |
| 5. 事務局運営費     | 1,200,000   | 1,460,000   | △ 260,000 | 給与、ソフト等    |
| II. 会報費       | 700,000     | 800,000     | △ 100,000 | 会報19号      |
| III. 名簿作成繰入金  | 300,000     | 300,000     | 0         | 特別会計Ⅰへ     |
| IV. 名簿管理費     | 300,000     | 300,000     | 0         | 業務委託等      |
| V. 卒業生記念品費    | 500,000     | 500,000     | 0         | 平成15年度卒業生  |
| VI. 学会補助費     | 200,000     | 200,000     | 0         | 第41回日大獣医学会 |
| VII. 将来事業繰入金  | 300,000     | 300,000     | 0         | 特別会計Ⅱへ     |
| VIII. 組織拡充費   | 400,000     | 300,000     | 100,000   | 情報ネット化調査費  |
| 予備費           | 270,000     | 285,000     | △ 15,000  |            |
| 当期支出合計(C)     | 7,540,000   | 7,645,000   | △ 105,000 |            |
| 当期収支差額(A-C)   | △ 3,636,987 | △ 3,360,053 | △ 276,934 |            |
| 次期繰越収支差額(B-C) | 0           | 0           | 0         |            |

平成15年7月5日 平成15年度角笛会総会承認

## 平成15年度特別会計Ⅰ 予算【名簿会計】

自 平成15年4月1日 至 平成16年3月31日

## 収入の部

(円)

| 科 目        | 予 算 額     | 前年度予算額    | 差 額      | 備 考    |
|------------|-----------|-----------|----------|--------|
| I. 名簿作成繰入金 | 300,000   | 300,000   | 0        | 一般会計より |
| II. 預金利子   | 10,601    | 31,915    | △ 21,314 |        |
| 当期収入合計(A)  | 310,601   | 331,915   | △ 21,314 |        |
| 前期繰越額      | 3,909,399 | 3,898,085 | 11,314   |        |
| 収入予算合計(B)  | 4,220,000 | 4,230,000 | △ 10,000 |        |

## 支出の部

(円)

| 科 目           | 予 算 額       | 前年度予算額      | 差 額      | 備 考 |
|---------------|-------------|-------------|----------|-----|
| I. 名簿印刷費      | 0           | 0           | 0        |     |
| II. 送料        | 0           | 0           | 0        |     |
| III. 名簿作成積立金  | 3,910,000   | 3,910,000   | 0        |     |
| IV. 予備費       | 310,000     | 320,000     | △ 10,000 |     |
| 当期支出予算合計(C)   | 4,220,000   | 4,230,000   | △ 10,000 |     |
| 当期収支差額(A-C)   | △ 3,909,399 | △ 3,898,085 | 11,314   |     |
| 次期繰越収支差額(B-C) | 0           | 0           | 0        |     |

平成15年7月5日 平成15年度角笛会総会承認

## 平成15年度特別会計Ⅱ 予算【支援基金・将来事業資金】

自 平成15年4月1日 至 平成16年3月31日

## 収入の部

(円)

| 科 目          | 予 算 額     | 前年度予算額    | 差 額       | 備 考    |
|--------------|-----------|-----------|-----------|--------|
| I. 将来事業繰入金   | 300,000   | 300,000   | 0         | 一般会計より |
| II. 預金利子     | 12,536    | 16,339    | △ 3,803   |        |
| 当期収入合計(A)    | 312,536   | 316,339   | △ 3,803   |        |
| 前期収支繰越差額     | 6,587,464 | 6,683,661 | △ 96,197  |        |
| 1. ANMEC支援基金 | 1,937,464 | 2,033,661 | △ 96,197  |        |
| 2. 将来事業基金    | 4,650,000 | 4,650,000 | 0         |        |
| 収入予算合計(B)    | 6,900,000 | 7,000,000 | △ 100,000 |        |

## 支出の部

(円)

| 科 目           | 予 算 額       | 前年度予算額      | 差 額       | 備 考       |
|---------------|-------------|-------------|-----------|-----------|
| I. 研究助成費      | 500,000     | 500,000     | 0         | ANMEC支援基金 |
| II. 外国専門医招聘料  | 100,000     | 150,000     | △ 50,000  | ANMEC支援基金 |
| III. 特別事業費    | 1,200,000   | 1,200,000   | 0         |           |
| IV. 将来事業基金    | 5,100,000   | 5,150,000   | △ 50,000  |           |
| 当期支出合計(C)     | 6,900,000   | 7,000,000   | △ 100,000 |           |
| 当期支出差額(A-C)   | △ 6,587,464 | △ 6,683,661 | △ 96,197  |           |
| 次期繰越収支差額(B-C) | 0           | 0           | 0         |           |

平成15年7月5日 平成15年度角笛会総会承認



## 角笛会関連記事

## 四師会(日本大学医療系同窓・校友連絡会)を支持しよう

野坂 宏(昭和43年卒)

四師会の誕生に私が多少係わりを持ちましたので僥倖ながら経緯を話させていただきます。

平成10年日本大学三学部(医学部、歯学部、薬学部)を卒業した医師、歯科医師、薬剤師の先生方が、八王子市、日野市、南多摩地域を中心に日本大学南校三師会を結成されました。年に一度おたがいの旧交を温め、それぞれ分野の情報の交換を目的とした、和気藹々とした集まりが作られました。そんな中、当時東京都獣医師会八王子支部長をされていた山田勝彦先生のもとに農獣医学部へもいかがとのお誘いがありました。

平成11年開催担当学部歯学部のときに、南校四師会(医師、歯科医師、薬剤師、獣医師)として獣医師も加えていただき、このとき初めて山田勝彦先生とご一緒させていただきました。主催者側から我々獣医師を温かい心配りのあるご紹介をいただきました。

その後医療担当者としての今後のあり方が述べられました。アトラクションは現役学生による勇壮な応援が披露され、日大節、応援歌、校歌と続き久しぶりの学生服姿に懐かしさも加わり、若い血潮が蘇った気がしました。懇親会ではほかの三師の皆様と世間話はもちろん私たちの健康相談をしていただき、犬や猫を飼っておられる先生方からペットの健康相談があり楽しいひと時を過ごすことが出来ました。

平成12年は前回に出席した獣医師と実行委員会を結成し、南校四師会に加わりしました。数回、八王子市で会合をもち、決算、予算報告、次回会場、開催日、招待者などを検討しました。この年の担当学部薬学部から、限られた地域からの参加者では、今後、会の継続は困難であるとの動議が提出されました。我々獣医師も同じことが予想されるので同意しました。私たちも翌年には担当学部になるため、四師会を理解していただく為、その旨を角笛会 会長 日比野次郎先生にお話し御出席をお願いしました。又、八王子、日野市だけでなく町田、北多摩、三鷹、練馬の角笛会会員に協力要請し、多数の出席を呼びかけました。この年の第3回南校四師会では、薬学部同窓会長の「医薬同元」についての講話のあと、薬学部の四師会でのあり方について述べられました。アトラクションは、同窓生による弦楽演奏があり、雰囲気盛り上げていただきました。各学部の出席者一人一人の紹介があり、学生気分に戻って大変楽しいひと時を過ごすことが出来ました。

平成13年第4回南校四師会は7月7日(土)京王プラザホテルで生物資源科学部が担当学部となり開催されました。山田勝彦先生を中心に東獣会員の枠を越え、非会員の協力も加わり多くの参加者が集まりました。生物資源科学部獣医学科主任教授の渡部敏先生によるご挨拶、学部の現状報告と、「人と動物の最近の医学について」の熱の入っ

た話をしていただき医学部はじめ他学部参加者の大きな感動が得られましたことは今でも忘れられません。つづいて角笛会会長日比野次郎先生からの他学部との交流の意義についてお話があり、東獣副会長山村欣三先生 元オール日大応援団長の力強い乾杯のあと懇親会に移りました。アトラクションは松旭斉ちどりさんのマジック演技があり、そのあと前年度同様四学部出席者の紹介があり獣医学科では倉林恵太郎先生の名司会で和やかな雰囲気でも過ごすことが出来ました。閉会の辞を角笛会理事 熊井治孝先生より南校四師会は今後次世代に引き継いでいこうという力強く閉めていただきました。この時、参加して下さった校友会薬学部同窓会事務局 山内 盛先生より「我々医療系の学問を志す者は、この四師会を中心に展開していくべきではないか」という主旨が述べられ、日大校友会にその旨をなげかけました。

本部では四師会を中心とした医療系学部を将来増設しようというほどの意気込みで「日本大学医療系学部校友会連絡会」(仮称)開催についての案内が日比野次郎先生の元に寄せられました。

内容は「日本大学には医療関係学部が五学部(医学部、歯学部、松戸歯学部、薬学部、生物資源科学部)があります。日本の数ある私立大学の中で、このように医療関係学部が揃っている大学はありません。21世紀は、医療、福祉の世紀と言われていますが、校友が結束して、この問題に対処し、日大パワーを発揮する時代と考え、この結成を考えました。この趣旨にご賛同いただき是非出席してほしい」とのことで、急遽 角笛会会長日比野次郎先生、山田勝彦先生と私の3人で市ヶ谷の日本大学会館で開かれた「第1回日本大学医療系学部校友会連絡会(仮称)」に出席しました。薬学部校友会がコーディネーターとなり、まず名称を「日本大学医療系同窓校友連絡会」を正式名とすることが協議され、更に、今後の活動方針について話され、名簿交換、各同窓会、校友会のホームページの活用、日大カードの活用、医療、診療所に関する情報、災害時の医療チーム協力、学術情報など数回検討された。今 現在 随時 学術講演会が、「医療領域に於ける最近の話題」をテーマとして行われている。

第1回は、日比野次郎先生の推薦で都立駒込病院小児科医長 高山直秀先生による「今なぜ狂犬病」を講演していただき、狂犬病の恐ろしさを再認識し、出席者の中には近々海外にいかれる方もいらして大変参考になり有意義な講演がもたれた。

第2回は、人口問題、再生医療、バイオテクノロジーの進歩がテーマとなり、日比野次郎先生のご紹介で生物資源科学部獣医学科生理学教室教授 金山喜一先生による「獣医学分野におけるバイオテクノロジーの歩み」について講演されました。先生は、この分

野では第一線の方です。生殖生理学領域のバイオテクノロジーを取り上げ、獣医学分野における生殖現象の人為的コントロールに係わって来たバイオテクノロジーの歩みとその展開を主体に紹介、解説を行い、これらの技術はヒトの医療に不妊症の治療に大きな貢献をし、更に、クローン技術の応用性をといた。また、BSE(牛海綿状脳症)での厳重な検査は獣医師が第一線で活躍し、国民に安心した食生活が保証されていることを伝えた。最後に、「六会」での自然が豊富なキャンパスで学問を学び研究している学生やスタッフを紹介した。

平成15年担当学部医学部での会場では、医学部図書館棟4階の記念講堂で行われ休憩時間では資料室が開放され杉田玄白訳「解体新書」1774刊、貝原益軒の「養生訓」1813刊、花岡青洲の「金創口授」、新井白石著「西洋紀聞」1882刊などの有名和漢書が身近に展示され、参加された先生方に見ていただくことが出来ました。講演後は懇親会が催され医学部長 堀江先生より各学部間で生物、医学を通して親しく研究すること又向学心を持つことの素晴らしさについてお話がありました。又 医学部同窓生の中には、獣医学科の研究室に一時在籍された先生もいらして旧交を温め和やかなうちに会を終えることが出来たことは嬉しい限りでありました。このように角笛会は四師会になくはならない会ですが、残念なことに、学部昇格されていません。今後は、ベテリナリーパワーを発揮し、学部認められる力になれるよう願望したいものです。最後に、この四師会に設立時より応援して下さった角笛会前会長日比野次郎先生、東京角笛会会長倉林恵太郎先生、角笛会本部監事堀口隆嘉先生、角笛会の皆々様に深く感謝し報告とさせていただきます。

平成13年7月7日八王子京王プラザホテル  
南校四師会に参加された先生 (順不同)

日比野次郎先生(昭14年度卒)  
山村 欣三先生(昭33年度卒)  
堀口 隆嘉先生(昭33年度卒)  
倉林恵太郎先生(昭36年度卒)  
吉川 忠作先生(昭38年度卒)  
斎藤 勝先生(昭38年度卒)  
深井 秀昭先生(昭39年度卒)  
青木 貢一先生(昭39年度卒)  
熊井 治孝先生(昭40年度卒)  
高谷 不覇先生(昭40年度卒)  
山田 勝彦先生(昭42年度卒)  
小山 誠先生(昭43年度卒)  
松川 定治先生(昭43年度卒)  
高橋与四郎先生(昭45年度卒)  
幅田 功先生(昭45年度卒)  
高石 啓一先生(昭47年度卒)  
長崎 幸司先生(昭48年度卒)  
羽原 弦史先生(昭56年度卒)  
永田 雅彦先生(昭60年度卒)  
西木 千絵先生(昭60年度卒)  
大門 義俊先生(昭61年度卒)  
太田 亮先生(平3年度卒)  
小池 崇史先生(平6年度卒)



## 活躍する卒業生

菊池栄作 (平成10年3月卒)

農林水産省動物医薬品検査所 検査第一部 無菌検査室

平成14年春に大学院修了後農林水産省に行政職(獣医職)として入省し、現在は国分寺にある動物医薬品検査所に勤務しています。

動物用医薬品等(動物用医薬品、動物用医薬部外品、動物用医療用具)は、家畜、家禽、養殖魚等の疾病の診断、予防、治療等を目的として使用され、安全な畜・水産物の生産性の向上に、さらには犬・猫・エキゾチックアニマル等伴侶動物の健康の増進に寄与しています。また、人獣共通感染症の防除を通じて、公衆衛生の向上に重要な役割を果たしています。当所は、動物用医薬品等の安全性・有効性を確保するため、医薬品の開発、製造(輸入)、流通及び使用の各段階にわたり、その品質確保を図るための検査・指導を行うことにより、動物の衛生及び公衆衛生の向上に貢献する国内唯一の機関です。当所の業務内容について以下に記載します。

動物用医薬品を製造(輸入)するためには、農林水産大臣の承認とその医薬品を製造(輸入)

する製造所(営業所)ごとの許可が必要です。当所は製造(輸入)承認申請書などの添付資料についての技術的審査や信頼性基準適合性調査を行っています。また、動物用医薬品ごとに様々な情報の収集・提供や評価を行い、定期的な有効性や安全性の確認・見直しを行っています。

開発から承認まで長い時間と多額の費用が必要な動物用医薬品等の製造(輸入)業者の負担の軽減を図るため、開発段階から適切な助言・指導を行っています。また、製造や承認に関わる様々な基準を国際的な調和をはかりながら、作成しています。進歩する科学的水準に対応した、より信頼性の高い検定・検査をおこなうために、検定・検査業務と並行して動物用医薬品等に関する調査・研究を実施しています。これらの成果を製剤基準・検定基準に反映させるほか、学会及び学術雑誌等に報告を行っています。

また、都道府県の薬事監視員、製造(輸入)業者の製造担当者などを対象に、技術講習を開催

しています。さらに、国際技術協力の一環として、多くの職員が専門家として各国に派遣されているほか、当所において海外研修生への技術移転も行っています。



現在、私は各種の動物用生化学的製剤の検定や細菌、マイコプラズマ等を対象にした研究と動物薬事行政に関する業務を行っています。また、本年5月までの約半年間、本省の消費・安全局衛生管理課薬事・飼料安全室に所属し、動物用医薬品等の監視指導業務に従事しました。

動物用医薬品等を通して、動物の生命と食の安全を守ることにつながる事が出来る。現在の仕事に非常にやりがいを感じています。行政と研究それぞれの業務で異なる能力が求められることもあり、自分の能力のなさを悲観することも多々ありますが、これから多くの皆様方のご指導、ご鞭撻を頂きながら、精進していきたいと思っています。

山本純栄 (平成12年卒)

青年海外協力隊員 職種: 環境教育

“森の人”であるオランウータンの孤児を森に返すセビロクオランウータンリハビリテーションセンターを運営するマレーシア・サバ州野生生物局・教育ユニットが私の配属先です。

サバ州東部に位置するタビン・クランバ野生生物保護区間の

セガマ河下流域に川の民といわれるティドン族の村があります。この地域にはオランウータンをはじめ、テングザル、スマトラサイ、ボルネオピグミーゾウ(ボルネオ島のアジアゾウ)、ジャワウシなどの希少動物の重要な生息域となっています。この生息域を持続的に管理するために村人の参加は不可欠です。そこで、村の民たちが自然と一体となりどのように生活を営んでいるか、何を求めているかを知るためにダガット村で社会調査を行いました。

川の民といわれる村人のほとんどは川と海の産



(川とともに生きる人たち)

物を使って生活をしています。ブーと呼ばれるラタンで作った仕掛けで採るテナガエビは大きな収入源です。とはいえ、町で暮らす人々の約半分(300リンギット=約1万円)の収入で大家族を支えています。

村人の殆どは教育を受けていないか、受けていても小学校の途中までです。最近、主な現金収入であったテナガエビの漁獲量が減ってきたことから、将来の生活のため子供達に教育をうけさせたいという思いは強いものの、交通手段は漁に使っているボートしかなく、学校に行くためには親戚を頼ったり、面倒を見てくれるお姉さんと一緒に移住しなければなりません。

男性は朝早くから漁に出て、女性は家事や育児をしながらブーを作って家庭を支えます。漁で採ってきた魚介類に庭で作っている野菜やタピオカ、森から取ってきたパキスやカンコンなどの野草と米が主な食事です。電気、ガスはないので川や森で拾った木を薪にして料理します。村のあるところは海水が入ってくる汽水域

にあるため、水は雨水だけが頼りです。サロンと呼ばれる布を巻いて、ドラム缶にためた雨水を汲んで体を洗います。殆どの家にはトイレはなく、川がトイレ代わりの生活です。

このような生活の村人にとって、カニクイザルはブーにかかったエビや魚を盗む泥棒であり、群れで村に入ってくるボルネオピグミーゾウやヒゲイノシシは苦勞して育てた庭の野菜や果物を根こそぎ食べてしまう乱暴ものです。こうした状況下で野生生物保全など不可能だと誰もが思うことでしょう。しかし、今回一緒に調査に入った仲間が暮らすキナバタンガ河下流域のスカウ村も、実は10年前までこの村とあまり変わらない状況でした。ところが、村人を主体としたエコツーリズムと保全調査を組み合わせたオランウータン保全プロジェクトを通じて、今では村全体で野生生物保全に取り組んでいます。

来週、ダガット村の人々と一緒にこのスカウ村を訪れます。このスタディーツアーがきっかけとなり、近い将来、ダガット村にも伝統的な暮らしと野生動物がうまく共存し、発展していける日が訪れることを期待します。

中尾るり子 (平成13年卒)

ワシントン州立大学大学院

早いもので私がアメリカ合衆国ワシントン州ブルマンに住むようになってもう2年半も経ちました。初めて一人で関西空港からシアトル行きの飛行機に乗り、日本の島影が見えなくなって途方にくれたような思いに駆られたのがつい昨日のようです。現在私はワシントン州立大学のFood Science and Human Nutrition学科、博士課程2年目です。所属している研究室では、私は主に動物での栄養面における癌とその化学療法の副作用の改善の研究を行っています。

アメリカの大学院での苦勞はというと、まず授業です。内容も高度で、予習復習として最新の論文読んでくる宿題も頻繁に出ます。また、試験

が1ヶ月に1度はあるので、週日は実験、土日に授業の予習復習という日々が続きます。

しかしなんとと言っても最大の苦勞はやはり語学です。日常の英会話に加え専門用語、医学用語もある程度マスターしなければなりません。セミナークラスでは40分のプレゼンテーションを英語でやり通さなければならぬので大変です。私の場合、人前でしゃべることに不安感を覚えなくなるのに1年、冗談を言えるようになるのに2年かかりました。しかしまだ今でも、友達が何を言っているのかさっぱり分からないことがあります。一度語学を習得してしまうと何かと便利ですが、そう簡単な道のりではありませんでした。

と、いろいろ苦勞を書くとき暗い毎日かと思われま



研究室にて

すが、楽しいこともいっぱいあります。まず、アメリカも含めいろいろな国の友達ができること。ヨーロッパ、アジア、南アメリカ、中東。文化の違いを気にしては先に進めません。自分自身、日本にいたころに比べてずいぶん気持ちオープンになったと

思います。また、みんな表現が大きいので、私もつられて笑うことが多くなり、表情も豊かになったかもしれません。さらに、アメリカでは、獣医学部も含めて大学研究職に着く女性が多いので、こういった女性の先生方の生き方は一個人としてとても参考になり、励まされることも多々あります。

まだまだ日本には帰れそうにありませんが、明るく前向きにがんばろうと思う毎日です。

## 獣医学科の近況

## 獣医学科入試・入学状況

現在、本学では種々の方法で入学者の選抜が行われていますが、獣医学科のそれぞれの受験状況は以下の表に示すとおりです。

| 選抜方法           | 募集人員      | 受験者数       | 合格者数   | 競争率  |
|----------------|-----------|------------|--------|------|
| 指定校推薦(普通科)     | 学部全体で110名 | 27(18)     | 13(10) | 2.1  |
| 公募制推薦(普通科)     | 学部全体で55名  | 67(49)     | 10(9)  | 6.7  |
| 公募制推薦(関連産業後継者) | 学部全体で44名  | 28(11)     | 10(5)  | 2.8  |
| 本校試験(第1期)      | 40名       | 1,479(740) | 76(36) | 20.3 |
| 地方試験(第2期)      | 20名       | 1,479(740) | 45(25) | 32.9 |

本年度獣医学科に入学した1年生は154名(うち女子は92名)です。

( )は女子

## ■ 学年担任

- 1年次：門井克幸教授(実験動物学)  
津曲茂久助教授(獣医臨床繁殖学)  
小堂俊孝助教授(英語)
- 2年次：湯川眞嘉教授(実験動物学)  
大場茂夫講師(獣医内科学)
- 3年次：浅野隆司教授(獣医薬理学)  
渋谷久講師(獣医病理学)
- 4年次：金山喜一教授(獣医生理学)  
上床和弘講師(獣医伝染病学)
- 5年次：月瀬東教授(獣医解剖学)  
森友忠昭助教授(魚病学)
- 6年次：中西照幸教授(魚病学)  
丸山総一助教授(獣医公衆衛生学)

## ■ 退職

- 藩英仁先生(獣医伝染病学)  
見上彪先生(獣医公衆衛生学)  
が退職されました。

## ■ 昇格・移動

- 浅野和之先生(獣医外科学)  
加納 壘先生(獣医臨床病理学)  
壁谷英則先生(獣医公衆衛生学)  
がそれぞれ講師に昇格されました。

## ■ その他

- 見上彪先生は7月より内閣府食品安全委員会の常任委員に就任されました。同時に、本学客員教授にも就任されました。

## ■ 新 任



石名坂豪助手  
(獣医臨床繁殖学)



枝村一弥助手  
(獣医外科学)



坂井 学助手  
(総合臨床獣医学)



鈴木和彦助手  
(獣医病理学)

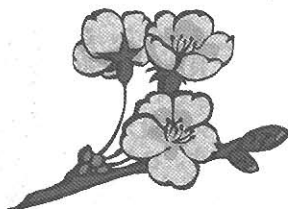


高橋朋子助手  
(総合臨床獣医学)



堀江美千子副手

本年度は以上6名が採用されました。



この度、獣医学科教授渡部敏先生が、中国福建農林大学より名誉教授の称号を授与されました。また、渡部先生は世界で初めて開発した実験動物用の搾乳器を用い、中国四川省成都にある国立成都パンダ繁殖研究基地で絶滅危惧動物のパンダの人工搾乳に成功しました。パンダは人工繁殖の非常に難しい動物で、この人工搾乳の成功がパンダの人工繁殖の促進に大いに貢献できる可能性が出てきました。

## 聘 書

茲聘請渡部敏博士为福建农林大学  
名誉教授。  
此聘



聘书编号: M013-004

福建农林大学  
校长: 郑金贵  
二〇〇五年八月二十九日



## 獣医師国家試験

第54回獣医師国家試験の結果が平成15年3月19日に発表されました。日本大学獣医学科からは新卒者148人が受験し、119人が合格しました。合格率は80.4%でした(全国平均88.2%)。



## 表彰,受賞,学位等の授与

卒業生の田井貴子さんが優等賞、住川栄太さん、塚原涼子さんが学部長賞、福成和博さんが日本獣医師会長賞をそれぞれ授与されました。また、体育部門で片岡杏子さんが総長賞を、学術・文化部門で二瓶萩尾さんが優秀賞を授与されました。

角笛会会長賞は、住川栄太さん、田井貴子さんに授与されました。

今年度、大学院博士課程を修了し博士(獣医学)を取得された方は坂井学氏(犬慢性肝疾患の病態に関する研究)、佐野順一氏(犬好中球におけるアポトーシス制御に関する研究)、橋本志津氏(犬乳腺腫瘍の臨床疫学的研究)、論文提出により博士(獣医学)を取得された方は、宮本賢治氏(猫の糸球体濾過機能に関する研究)です。

## 求人のお願

女子学生の増加に伴い、小動物臨床の勤務医を希望する者が増えています。会員からの求人申し込みは学部就職指導課ならびに6年次担任(中西照幸教授、丸山総一助教授)までご連絡ください。(文責:丸山 総一)

## 編集後記

私は角笛会報15号から19号まで編集を担当させていただきました。このような仕事には不慣れなため、至らぬ点が多々あったかと存じますが、どうかご容赦ください。

平成16年度から、鎌田寛先生より角笛会の事務局長を引き継ぐことになりました。伝統ある獣医学科の同窓会事務局長という大役をお引き受けするにあたり、重責を感じておりますが、精一杯努めさせていただきますので、どうぞよろしくお願い致します。それに伴い、事務局のメンバーも一新し、本誌編集担当を椎橋孝先生(医動物学研究室)、庶務・名簿担当を大谷功先生(獣医生理学研究室)、事務局アルバイトを田中智子さん(元本学副手)にお手伝いいただくことになりました。若い事務局の先生方の方に大いに期待しておりますので、学内の諸先生方の手助けとご協力をいただきながら、是非角笛会を盛り上げていきたいと思っております。

2004年6月1日 (丸山総一昭和57年学部卒)